

アメリカの大学図書館

教育学部助教授 稲葉宏雄

私は昭和50年10月中旬から一年間、現代のカリキュラム研究のため、文部省在外研究員としてアメリカ合衆国に滞在した。その主たる研究地はカリフォルニア大学ロサンゼルス校であったが、その研究期間のうち約2ヶ月はアメリカ東部地方で過ごし、主としてコロンビア大学ティチャーズ・カレッジに滞在した。従って、私のアメリカでの大学図書館についての体験は、殆どカリフォルニア大学とコロンビア大学に限られているわけである。しかし一方はアメリカの州立大学を、他方は私立大学を代表する大学であり、その両者での図書館についての体験は、アメリカの大学図書館の一般的な在り方を示しているといえるかも知れない。ここでは、私が最も多く利用したカリフォルニア大学の図書館についての体験とその感想を書いておきたい。

カリフォルニア大学の場合、中央図書館ともいふべきものとして University Research Library があり、これを中心として College Library 及びその他の記念図書館が存在している。図書館利用は、先ず University Research Library に登録して Library Card の交付を受けることから始まる。このカードがなければ、教官も学生も、又私のような visiting scholar も図書館を利用することはできない。本の借出の場合にも、文献調査依頼の場合にも、このカードに記入されている名前と Borrower Number が必要なのである。この

カードは大学のどの図書館でも有効なのであるが、私は University Research Library と Education and Psychology Library でしか利用する機会をもたなかった。

この二つの図書館についての第一の印象は、大学キャンパスの広さと相応する形での規模の大きさであった。専門的文献は殆ど Education and Psychology Library で用が足りたので、Research Library では、私はその二階にあった Orient Library を専ら利用した。ここには主として日本、中国、朝鮮の文献が集中的に集められており、日本の部門では人文科学に関する研究書、大学紀要、研究誌と共に「文芸春秋」「週刊朝日」から「朝日新聞」——但し一ヶ月遅れ——までがあつて、日本の情報をうるにはことかかなかつた。私が主として利用した Education and Psychology Library の場合は、その大きさを別とすれば、図書館の建物や書架の配列に特別の工夫がなされているというのではなく、我々がなれしたしんでいるのと同じような開架方式であつた。

この二つの図書館で最も印象深かつたのは、図書館員の人的な豊富さとその多様なサービスであつた。大学図書館は研究と教育に奉仕するものとしてあるという原則が貫かれており、多数の図書館員がいることによって、利用者に対して極わめてきめ細かなサービスと情報活動をすることが可能であるということである。東洋系の図書館員の

中には日本語を話す人もあり、私は常に親切なサービスを受けたということが出来る。又人的豊富さは、開館時間を利用者のために設定するという事を可能にしていた。Education and Psychology Library の場合、開館時間は月曜から木曜は午前8時から午後11時、金曜は午前8時から午後5時、土曜は午前9時から午後5時、日曜は午後1時から午後9時となっていた。これは現在の日本の大学図書館では考えられないことである。

その他、必要な項目についての文献はコンピューターを通じて即座に打ち出されてくるし、カリフォルニア大学にない文献については、直ちに他

の大学の図書館や一般の図書館に照会して、それをとり寄せてくれる等のサービスが心に残っている。私は利用しなかったが、Research Libraryに申しこんでおけば、多数の美術品、フランクリン自筆の自伝、ゲーテンベルヒ印刷機による最初の聖書、様々な庭園で有名なハンチントン・ライブラリーへも、大学の自動車で送迎してくれる等のサービスがなされていた。

図書館に関してのみいえば、少々うらやましい思いをもって帰国したというのが、いつわりのない感想である。

フランス社会思想史展について

<昨年11月8日より10日まで、附属図書館陳列室において、本学人文科学研究所の協力により、標記展示会が開催されたが、この機会に今回の「フランス社会思想史展」について、その趣旨の説明を人文科学研究所にお願いした。>

本学では各部局、各研究室において社会思想史の研究が進められているが、それらのうち人文科学研究所では、西洋部を中心として、18、19世紀のフランス社会思想についての共同研究が約30年近く実施されてきた。この共同研究は本学附属図書館をはじめ、各部局所蔵の多くの文献資料を利用しつつ行われたが、とくに附属図書館所蔵の

「フランス百科全書」、「サンシモン、フーリエ関係文献」、文学部所蔵の「ルソー全集」、「フランス革命文献」、経済学部所蔵の「プルードン全集」などの存在は、研究遂行上きわめて貴重なものであった。

今回の展示は、この共同研究に関連した文献の一端を示すとともに、共同研究の推移を回顧することを目的とした。

桑原武夫教授、つづいて河野健二教授の主宰するこの共同研究は現在も進行中であり、近く第二帝政期に関する研究報告が刊行される予定である。

人文科学研究所

プリンストン大学出版部寄託図書目録 第15回 (1973 後期)

前回<1975年 Vol. 12, No. 1 静脩参照>にひきつづき、1973年後期にプリンストン大学出版部から、寄託された図書を紹介します。利用を

希望される方は、書名の最後の()内の記号<請求記号>で、閲覧貸付掛<2階カウンター>へ請求してください。

I. PHILOSOPHY

- Toulmin, Stephen Edelston : Human understanding. [by] Stephen Toulmin. v. 1 : General introduction and pt.1, The collective use and evolution of concepts. 1972. (1-5. T6)
- Sircello, Guy : Mind & art; and essay on the varieties of expression. 1972. (1-8. S1)

II. SOCIAL SCIENCES

- Falk, Richard A. comp. : The Vietnam war and international law, ed. by Richard A. Falk. v. 3 : The widening context. 1972. xi, 951p. "Sponsored by the American Society of International Law." (2-5, F17)
- Moore, John Norton : Law and the Indo-China war. 1972. (2-5, M37)
- Gitelman, Zvi Y. : Jewish nationality and Soviet politics; the Jewish sections of the CPSU, 1917-1930, by Zvi Y. Gitelman. 1972. : "Written under the auspices of the Research Institute on Communist Affairs, Columbia University." (2-6. G55)
- Mathematical Social Science Board Conference on the New Economic History of Britain, 1840-1930, Harvard University, 1970. Essays on a mature economy : Britain after 1840. Ed. by Donald N. McCloskey. 1971. : Papers and proceedings of the conference held Sept. 1-3, 1970. (2-7. M95)
- Coale, Ansley J. : The growth and structure of human populations; a mathematical investigation, [by] Ansley J. Coale. 1972. : "A publication of the Office of Population Research, Princeton University." (2-8, C13)

IV. LITERATURE

- English literature, 1660-1800; a bibliography of modern studies, founded by Ronald S. Crane. Comp. for Philological quarterly, by Curt A. Zimansky [and other] v. 5 : 1961-1965. Foreword by Curt A. Zimansky. 1972. xi, 580p. v. 6 : 1966-1970. Index to vols. 5 and 6 by Curt A. Zimansky. 1972. 581-1293p. (4-2. E31)

- Morris, Wesley : Toward a new historicism. 1972. (4-2. M125)

Thoreau, Henry David : The Maine woods. Ed. by Joseph J. Moldenhauer. 1972. : (His The writings of Henry D. Thoreau) (4-2. T12)

- Valéry, Paul : Collected works of Paul Valéry. Ed. by Jackson Mathews. (Bollingen series 45) v. 8 : Leonardo Poe Mallarmé. Tr. by Malcolm Cowley and James R. Lawler. c1972. (4-4, V45)

V. HISTORY

- Morley, James William, ed. : Forecast for Japan; security in the 1970's. Ed. by James William Morley. Contributors : Donald C. Hellmann [and others] 1972. (5-6. M29)

VI. EUROPEAN HISTORY

- Hamerow, Theodore S. : The social foundations of German unification, 1858-1871, [by] Theodore S. Hamerow. [v.] : Ideas and institutions. 1969. (6-6. H7)
- Wilson, Woodrow : The papers of Woodrow Wilson. Arthur S. Link, editor. v. 12 : 1900-1902. 1972. (6-8. W12)

VII. SCIENCES

- Treiman, Sam B. and others : Lectures on current algebra and its applications, [by] Sam B. Treiman, Roman Jackiw, [and] David J. Gross. 1972. : (Princeton series in physics) (8-3. T12)
- Fretwell, Stephen D. : Populations in a seasonal environment, [by] Stephen D. Fretwell. 1972. : (Monographs in population biology, 5) (7-6. F35)

VIII. ARTS & INDUSTRIES

- Philip, Lotte Brand : The Ghent altarpiece and the art of Jan van Eyck. 1971. (8-1. P47)
- Goldstine, Herman Heine : The computer from Pascal to von Neumann, [by] Herman H. Goldstine. 1972. (8-5. G52)

特定主題資料の冊子目録作成

— 特殊教育関係資料目録作成作業を通じて —

1 はじめに

戦後の日本における教育改革は、教育界に種々変ぼうをもたらしたが、なかでも特殊教育は大きな変革をみ、現在もなお格段の進展を続けている。ことに最近では、欧米先進国の影響や、医学の進歩、教育内容、指導法の改善のすう勢によって、あらためて対象とする者の障害の実態の変化に着目した新しい省察が必要となってきた。

このような特殊教育研究の動向の中で、教育学部の教官、教育学部図書室で、関連する分野の資料の集収、整理が急がれていた。

一昨年（昭和49年）教官所蔵の関連資料を図書室で管理するよう教官より依頼があり、この程この整理を一応終えたのであるが、その数は図書室が従来所蔵していた資料を含め、後で述べるように7,000点を越えることになった。内容をみると、現在では入手困難と思われる関連機関の研究報告書、実態調査、パンフレット等が大部分を占めている。

これらの資料は、特殊教育分野での研究・教育にとって貴重なものであると考え、広く研究者の利用に供するため、図書室の参考業務の一環として、冊子目録の作成を計画した。

副標題で示した作業を通じて、特定主題の目録を作成するに当り、記述内容、編成、索引をどのようにすれば、より有効な目録になるかを定めることが先決問題であるため、ここでは目録上、特定主題のとりえ方、目録編成上の困難な点を現時点で、何らかの解決を見出すべく未解決の問題を残しながらも、到達した点の概略を述べることにしたい。

2 特定主題のとりえ方

特定主題に含まれる内容は、まず特定主題の枠

を決め、その枠に収められるべきものはこれこれの条件のものというように決められるべきでなく、特定主題の対象とすべき資料の出現に応じてその枠が決められるものである。従って特定主題といえども、ここに含まれる資料内容は図書分類法上、他の主題との係わりなしに全く独立した主題内容ではない。ここで取り上げる「特殊教育」(Education for handicapped)関係資料は、障害児・者の教育、社会保障、障害の原因、治療に関係する医学等が含まれる。また同じ教育の対象とされるにしても、障害別にみると対象とされてきた経緯あるいは歴史的過程のちがいによって教育対象とされ方にちがいがあり、時代の変化や、科学の進歩によって変わるものである。そのため資料分野の問題だけでなく、科学としての「特殊教育」のとりえ方によって資料のもつ意味が異なる。たとえばある病気を治療するとか、健康な状態に近づけるということに効果をもたらす教育というものが考えられてくれば、医学と教育は切り離して考えられなくなる。

3 主題分類上の問題

ところで特殊児・者という語は、障害児・者と優秀児のどちらもあらかず語として用いられ、これまでは(1)肢体不自由、ろう、盲などの身体に障害をもっているもの、(2)知能が高い、低いなどの知的に標準から極度に偏っているもの、(3)不適應児・者または情緒障害児・者などを含むものとされていた。また障害別には単一障害として言語、ろう、精神的、身体的等の障害が含まれ、複合障害は単一障害の環境要因などによる派生障害と、先天障害を含む。一方かかる障害児・者に対する教育の係わりは、障害そのものを改善しようとするをねらうとともに、さらに失なわれた機能

を代償するものをつくり出していくことをねらいとして行われる。

これらの障害児・者を扱った資料を何らかの基準で分類しようとする時、集収した資料が教育の目的か、社会保障、医学の目的かによって、さらに研究の発展を跡づけるため、いわゆるクロニクルをその目的とするか等によって分類のスタンダードの作り方が異なる。また含まれる資料内容が複合障害に関するものであれば、たとえば分類体系をNDC等の既存のものに従うとすれば、分類の困難度は増加することにもなる。

4 分類目録作成上の困難性

特殊教育関係資料の範疇に入るものは上述のように様々な関連分野を含み、われわれが意図する冊子目録の編集に大きく係わってくる。

教育学部では現在雑誌を除き、約7,000点の資料があるが、この目録に収録する主題内容は、「特殊教育」として分類されるものが全体の84.07%、「社会保障」15.89%、「医学」0.04%といった比になっている。問題は84.07%の「特殊教育」であるが、「特殊教育関係資料」ということで同一主題が主題の中心になることは当然である。しかし分類目録を作成する場合（分類目録を冊子目録として採用した理由は紙数の関係で省略する）、その内容の第二次配列を著者または書名にするにしても、量として単一分類項目内で配列することは困難であり、ひいては利用面からは価値のない目録になる。従って主題「特殊教育」を細分する必要がある。

単一障害で、しかも教育のみを内容とする資料であれば、盲児、弱視児、ろう児、難聴児、肢体不自由児、病弱・身体虚弱児、言語障害児、精神薄弱児、情緒障害児等の分類による配列は可能であるが、さらに重複障害、環境障害がある。そして教育は内容的には社会福祉に係わるものが多く、これらは雇用促進に関連する分野にも拡げることが予測される。これらをどのように分類するか。多くの社会科学がそうであるように、障害児

・者教育と研究は理論研究の枠に止まることなく、社会的要請との係わりの中で改善を目的とする行動科学に移行し始めてすでに半世紀を経た現在、社会福祉をもたない研究は殆んどない。とすれば便宜上、内容的に特殊教育に分類した資料は社会福祉を離れたものとして一率に処理することができず、しかもこれに医学や雇用問題が関係すれば、それらとの係わりをも考慮しなければならない。

6 一つの解決方法

教育、福祉（労働問題を含む）、医学を中心とした障害児・者関係の資料、同時にこの三分野が障害児・者を中心とした相互に関連をもつ資料をこの目録に収録するのであるが、現実に冊子として目録を編集する場合種々の困難な問題を含みながらも、上に述べた事柄を踏まえながら様々な解決方法が考えられる。

第一は障害の類分け、障害の組み合わせによる複合障害の区分を統一した分類体系の作成。具体的にはNDCの独自の展開を行うこと。第二は障害児・者の教育、福祉、医学の三分野よりのアプローチを可能ならしめる件名索引による交互参照索引の作成。（国立特殊教育総合研究所では、情報検索のための機械化を計画し、現在そのためのシソーラス作成が行われている。このシソーラス作成結果を参照することも考慮に入れる必要がある。）第三はすでに述べたように時代の変化や科学の進歩によって教育対象のとらえ方が異なるため、研究内容の発展、社会的とらえ方の歴史的過程を跡づけることをもこの目録に含める場合、資料の出版の年代索引をつけること。そして第四に著者、書名索引を付加することの4点を解決方法として計画する。

7 おわりに

特定主題に関する資料の管理について多くの研究がなされているが、概論的な内容のものが多く、すべての特定主題資料の管理に直ちに適用しうるものではない。目録に収録する資料内容に適した、

そして目録がもつ研究上の情報源としての価値等を適確に把握し、この目的に沿った規準を作成することから作業が出発する。ここに述べた内容は一率に特定主題の目録作成上規範になるものではないが、はじめに述べたように特定主題の目録作成上の一つの考え方として、現在早急に解決すべ

き問題を明確にするため一文にまとめたものである。(1971.10.7)

なお、この目録は、まもなく上に述べた諸問題を解決し、刊行される予定であることを付言する。

教育学部図書掛長 辻 武夫

「竹田蔵書」の受贈

— 法学部図書室 —

本コレクションは、商法学の権威として高名な本学名誉教授故竹田省先生(1890～1954)が愛蔵されたものであって、このたび御遺族竹田準二郎氏の御厚意により、法学部に寄贈されたものである。

コレクションは、商法学関係の図書ばかりでな

く、法令書、判例書、その他一般図書も含まれており、その数は和漢書956部、洋書295部、合計約1,250部にのぼる。

法学部図書室では、現在これらの図書を書庫内に別置き整理中であるが、整理完了の暁には一般蔵書として配架し、利用に供する予定である。

学生用図書の選書の仕組みについて

従来、附属図書館が学生用の一般図書を購入する予算は不十分なものであったが、昭和50年度に、文部省から「学生用図書購入費」(大学院生用を含む。)と指定して大学へ配当される予算が大幅に増大し、この図書費の運用についての全学的な対応の必要とともに、附属図書館(中央館)の蔵書構成の再検討、選書体制の整備等の問題への対処を迫られることになった。

学生用図書購入費の運用については、全学的立場に立って運用計画の策定の衝に当たること特に留意している。いうまでもなく、「附属図書館の重要事項を審議するため」に置かれている「附属図書館商議会」(各学部長を含む。)で審議され、商議会においてこの運用の基本方針が決定された。本年度もほぼ前年度試行の方式が継続されたので、その現状をお知らせして御理解と御協力をお願いしたい次第である。

まず商議会において全学的視野で決定された基本方針は次のとおりである。予算の執行事務は附属図書館で一元的に処理するのであるが(教養部を除く。)、選書と配置の基本問題については、能力・収書事情等も勘案し、総予算枠の約半分は各部局で必要と考える学生用基本図書の選書にゆだねるものとし、部局長に依頼して各部局の選書委員会(教官組織。名称、体制は部局により異同がある。)が選定したリストを附属図書館へ提出してもらい、一括購入する。その図書は、中央館に配置することが原則ではあるが、遠隔地等の実情に応じその一部は当該部局の図書館(室)に配置してもよい。予算枠の残る半分は附属図書館で選書し、同館に配置するが、その約半分は、各分野に共通して利用されるような高額図書(例えば自然科学系の大型書誌、人文社会科学系の叢書・大型資料など)に当て、残る半分の枠では学生の学

習の基本図書を中心として選定する。商議会における以上のような基本方針の決定のもとに、更に「学生用図書中央選書委員会」でその具体的な執行方針が審議決定された。同委員会は、議決機関である商議会の下部機構ではなく、附属図書館長の執行面を手助けする諮問機関として昭和50年度に設けられ、委員は部局長を除いた商議員と同じメンバーであって、全学的な構成である。同委員会では、例えば、部局選定分について各部局ごとの分担枠を決め、選書方針については、周辺のもの、あるカテゴリーのもの（コレクション等）、雑誌などの扱い等が決定された。したがって各部局及び附属図書館で選定した図書リストの扱いについては、この中央選書委員会の方針にそって最終決定される。

次に、具体的な図書リストの選定方法については、各部局ごとの選書分の説明は割愛し、附属図書館の選書分については、中央選書委員会のもとに「学生用図書附属図書館選書委員会」が設けられ、委員には、中央選書委員会の委員の中から、学問分野を大きく五つに分けて、人文系・社会科

学系・生物系・数物系・化学系を専攻する5人の委員（商議員である。）が当たられ、実際に選書を担当して御尽力いただいている。選書の方法としては、前述の高額図書については、委員が各分野から希望の出た図書の調整に当たり、審議のうえ決定する。この委員会は、館長の業務執行上の諮問機関であるが、事実上本委員会の決定を館長が尊重されることが慣行化されると考えられる。一方、残る枠で購入する一般的な基本図書については、本委員会が選定の責任をもつものであるが、その方法としては、附属図書館事務部が新刊図書目録（東販）にチェックしたものを委員会へ提出し、委員会は更に個々に点検して増補削減を行ったうえ決定する。なお事務部内部においては、本委員会の進行と表裏一体となって上記提出リストを準備するための組織として、事務部長を班長、整理課長を副班長とし、整理・閲覧両課の全掛長を含む13人の特別の選書組織を編成して力を傾けている。

（附属図書館事務部長）

近畿地区国・公立大学図書館協議会

本協議会のニュースについては、前号に本年度の事業計画として記したが、最近の委員会活動、その他について報告する。

委員会としては、「図書館統計に関する委員会」、「図書館業務の機械化に関する委員会」の2委員会が研究活動を行い、特に「統計委員会」では昨年度に引続いて本年度は、蔵書、利用の事項に焦点を合わせ検討が続けられていたが、昨年12月13日（月）「大学図書館の現行全国統計の改善について」をテーマに、京大楽友会館を会場に、23大学43名の参加を得て研究集会がもたれた。

本委員会は実に4年の永きにわたって、図書館統計の改善を目標に研究活動が続けられてきたが、

今年度で一応所期の目的を完了するので、委員会としての幕を閉じることになった。

協議会としては、本委員会の成果を、文部省、日本図書館協会に対し、全国統計に吸収されるよう、総会に諮ったうえで要望することになろう。

図書館施設の見学については、予定どおり甲南大学、大阪女子大学図書館の厚意により、4月上旬に行うことが予定されている。

主題別研究集会については、法律系が考えられているが、難点としては法学部をもつ大学が加盟大学には少ないことが挙げられている。そこで経済学部をもち、法律資料を相当所蔵する大学なども含めて考え、この主題の研究集会をどのよう

にもつかを検討するため、準備段階としての集りを1～2回予定している。

考え方としては、法学研究者の利用者としての

声と、図書館の対応ということになると思われるが、実現が望まれている。

唐学齋旧蔵書目録の完成

このほど(本年1月)、文学部図書室より「唐学齋旧蔵書目録」(京都大学文学部図書月報 別巻第13)が刊行された。これは、本学名誉教授の吉川幸次郎博士が昭和42年定年退官の際に本学に譲渡された分の蔵書を整理したもので、経学と五四前後の掌故に関する資料の稀覯書が少くない。全体の冊数は和漢書481部621冊と洋書7部7冊である。

昭和51年度 講演会開催 ー附属図書館ー

昭和51年度の附属図書館主催による講演会が次のように決まった。

と き： 昭和52年3月17日(木)

と ころ： 京都大学附属図書館会議室

講 師： 鈴鹿 蔵氏

演 題： 徳川初期の刊本について

今回は本館所蔵の古書を中心に、演題による講演会がもたれることになったが、周知のように同氏は永らく本学に勤務され、その人柄、学識は吾々のよき大先輩として大きな存在である。これを機会に、今後の図書館職員研修の場で御教示を期待したい。